

荒子川公園 管理運営方針

パークマネジメントプラン

◆公園の特性を生かした公園経営の推進◆

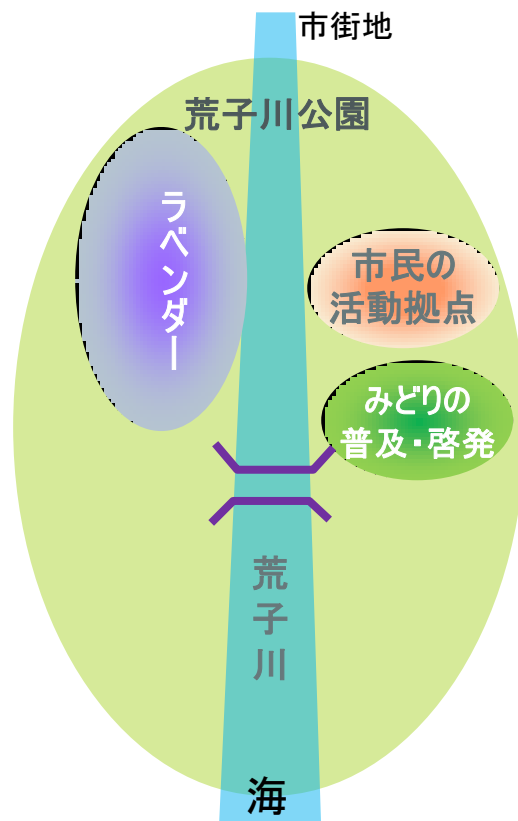
平成 26 年 8 月

名古屋市緑政土木局

荒子川公園のめざす公園像

ラベンダーの香りと季節の植物に彩られた市民の活動拠点である公園

- ・ 荒子川公園の特長のひとつである「ラベンダー園」を発展・進化させる。
- ・ ボランティア活動を継承・充実し、メンバーや市民のコミュニティの場となる公園（地域のオアシス）



目次

基本事項	1
1.公園の概要	
1-1.荒子川公園の概要	2
(1)概要	2
(2)行政計画上の位置づけおよび指定等	4
1-2.沿革	8
1-3.立地環境	10
(1)自然状況	10
(2)周辺状況	10
1-4.整備時の方針および内容	12
(1)整備当初の基本方針	12
1-5.施設状況	15
(1)施設概要	15
(2)利用時間および料金	17
(3)景観	19
1-6.利用状況	20
(1)利用実績	20
(2)利用者のニーズ	21
(3)利用者の意見	23
(4)開催行事	24
(5)利用・運営上の課題	24
(6)協働	25
1-7.公園の基本的な性格・役割	27
(1)特長の分析	27
(2)公園経営の現況評価	28
2.めざすべき姿と取り組みの方針	
2-1.公園がめざすべき姿	29
(1)めざす公園像	29
(2)荒子川公園のイメージ	29
2-2.取り組みの方針	30
(1)公園経営の目標設定	30
(2)ゾーン別特性	31
(3)維持管理の方針	32
(4)景観形成の方針	32
(5)運営管理の方針	32
(6)連携・協働の方針	33
(7)改修・再整備の方針	33
(8)災害対応の方針	33

公園管理運営方針 基本事項

公園管理運営方針（パークマネジメントプラン）は、平成 24 年 6 月に公表された「公園経営基本方針」及び、平成 25 年 7 月に公表された「公園経営事業展開プラン」に基づき、今後 10 年程度を計画期間として公園の管理運営の方針等を定めるものです。

この方針では、荒子川公園の性格、役割、立地条件や公園としてのあゆみ、利用者の動向などを踏まえて、めざす公園像を設定し、その実現にあたっての取り組みの方針を定めました。

管理者、利用者、事業者等は、このプランで示す各方針に即して、本公園における管理運営や利活用の促進を、それぞれの立場で行っていくものとします。

なお、本方針については、マネジメントサイクルで行う評価の結果や、周辺の都市基盤整備状況、技術動向、財政見通しなど社会経済情勢の変化等により対応が必要となった場合には、適宜見直しを行っていくものとします。

「名古屋市の公園経営」とは…

従来の行政主導による維持管理中心の公園管理から脱却し、利用者志向、規制緩和等による市民・事業者の参画の拡大、多様な資金調達とサービスへの還元、経営改善手法の導入など、公園の利活用の発想により公園の経営資源を最大限に活用していく新たな管理運営の考え方です。

名古屋市においては、市民ニーズを考慮した公園経営を第一とし、公園を「市民の資産」としてとらえ、多くの人々の関わりの中で、市民全体が公園経営の成果を享受できるように「管理する資産」から「経営する資産」へと公園の管理運営のあり方を大きく変革していくものです。



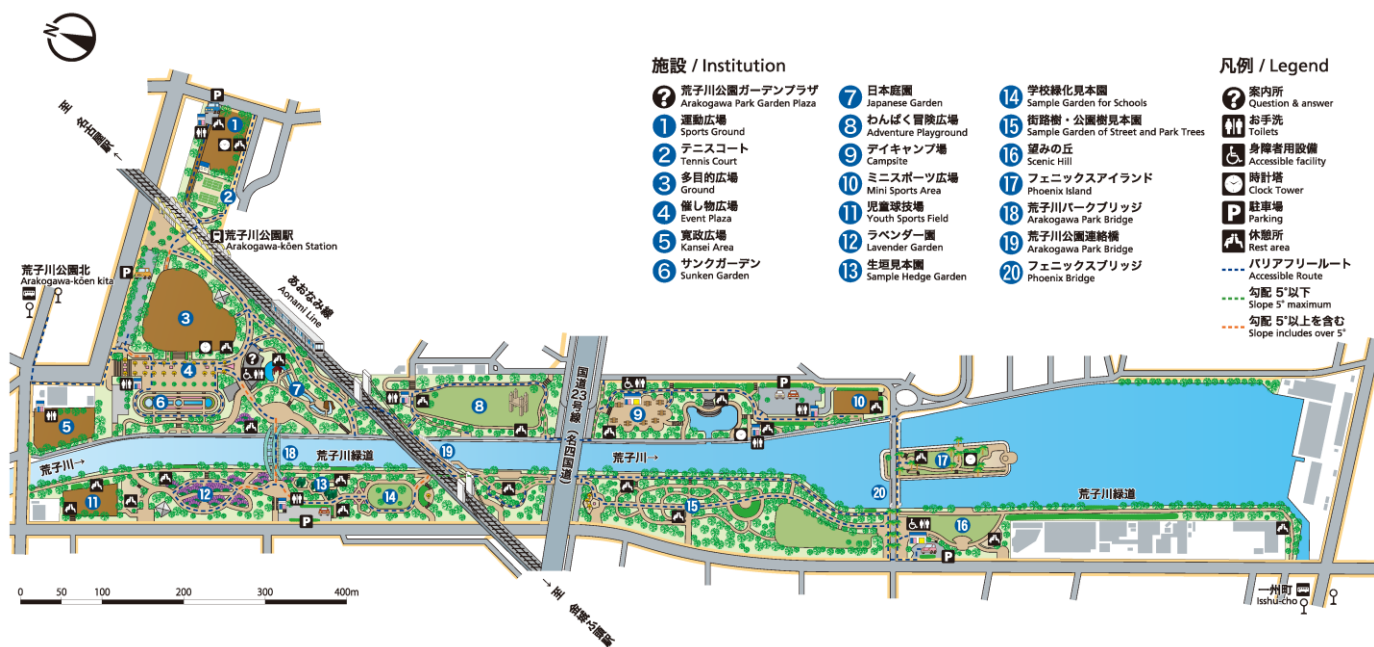
■市民・事業者・行政の Win-Win の関係

1.公園の概要

1-1.荒子川公園の概要

(1)概要

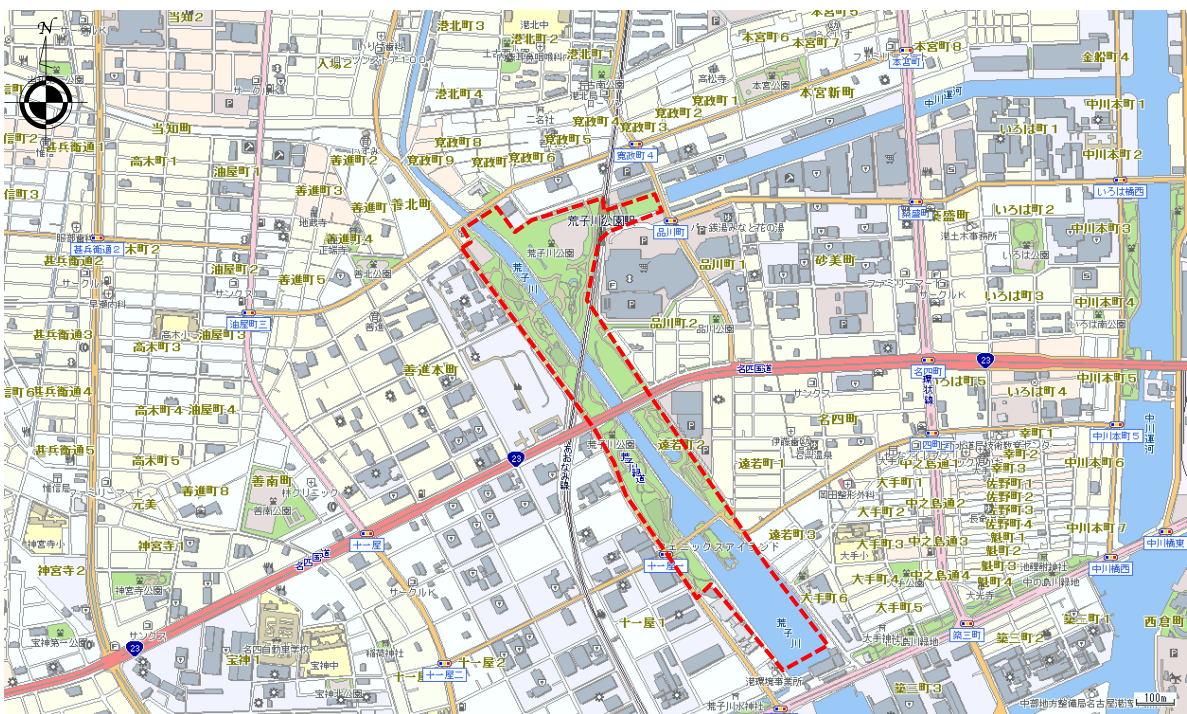
開園年度	昭和 60 年
都市公園法による設置	昭和 60 年 4 月 1 日
公園面積	26. 10ha
所在地	名古屋市港区遠若町 2 丁目、寛政町 4 丁目、5 丁目、6 丁目、7 丁目、品川町 2 丁目、十一屋一丁目、善進本町地内
公園種別	総合公園
都市計画決定	年度 昭和 54 年 3 月 23 日 番号 8・5・6 号（特殊公園） 面積 29. 6ha



荒子川公園平面図

【位置】

名古屋港から 500m の内陸側に位置する。あおなみ線荒子川公園駅に隣接しており、アクセスが容易である。



位置図

【交通】

あおなみ線「荒子川公園」駅

市バス（東海 11 系統）「荒子川公園北」

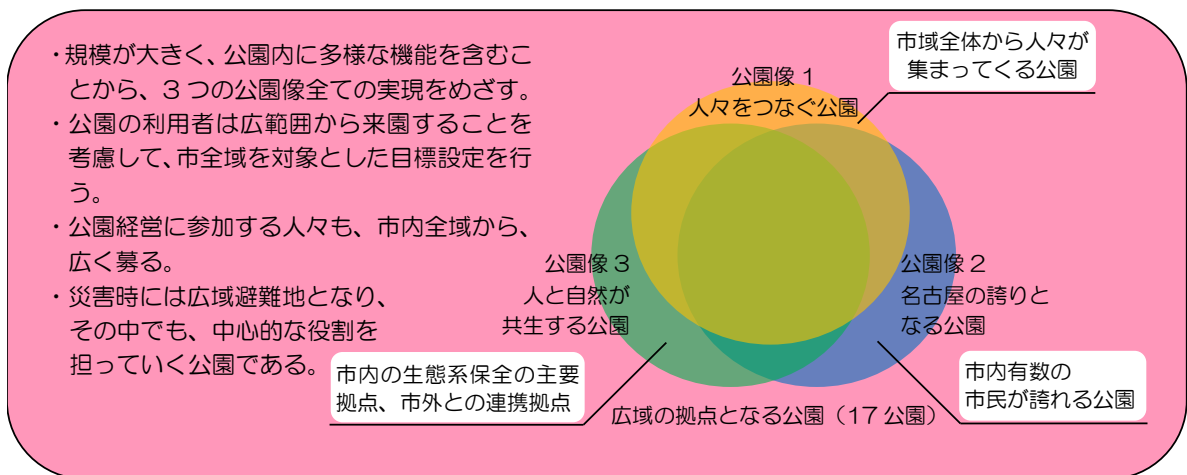
市バス（幹名駅 2、幹築地 1、金山 25、高畑 13、名港 13）「一州町」

(2) 行政計画上の位置づけおよび指定等

■ 広域の拠点となる公園

事業展開プランの中で、公園の面積規模や公園利用者の広がり considering 3つに分類された公園体系のうち、「広域の拠点となる公園」として位置づけられている。「広域の拠点となる公園」（市内 17 公園）とは、規模が大きく、広範囲（市内及び市外）の利用者が見込まれる総合公園、運動公園、特殊公園を指している。

【広域の拠点となる公園】



※名古屋市公園経営事業展開プラン（H25.7）

■広域避難場所

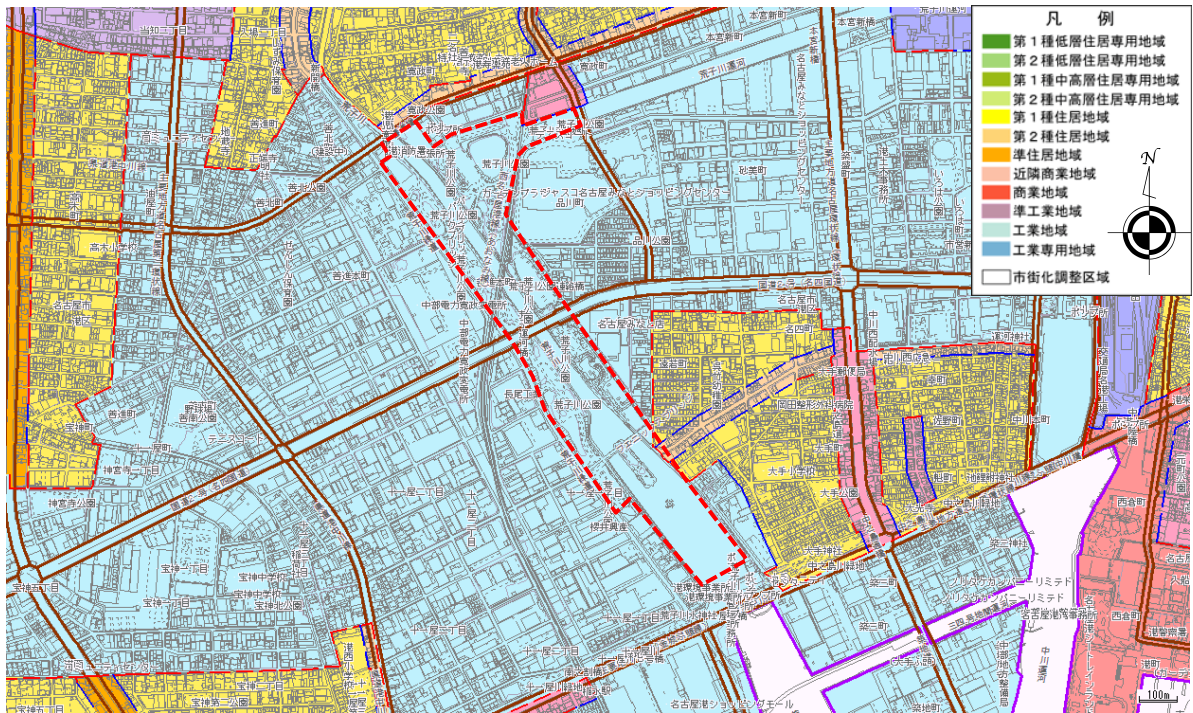
名古屋市地域防災計画の中で、荒子川公園は広域避難場所に指定されている。広域避難場所とは、主として地震火災が延焼拡大した場合に、周辺地域からの避難者を収容し、避難者の生命を保護するための場所である。



避難所マップ

■用途地域

荒子川公園は、工業地域に位置し、南東と北側に第1種住居地域が接している。



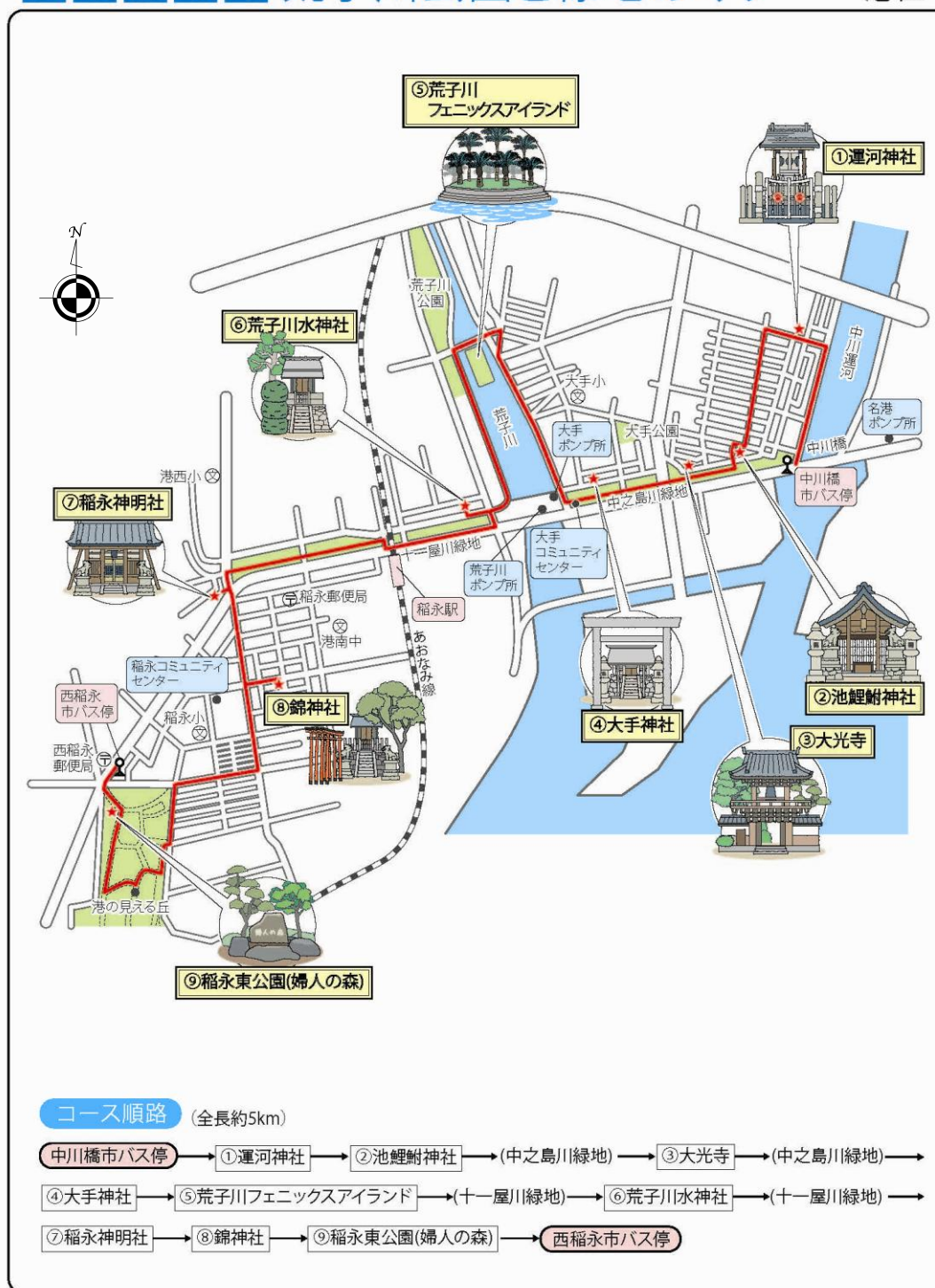
用途地域図

■史跡散策路

港区の史跡散策路の「荒子川公園と緑地めぐり」は、荒子川公園を通過するルートとなっている。

史跡散策路 荒子川公園と緑地めぐり

港区



史跡散策路マップ

● 交通ルールを守って、事故にあわないよう十分注意しましょう。

1-2.沿革

大正 13 年（1924 年）6 月 9 日	荒子川運河が都市計画決定される。 荒子川南部土地区画整理事業や遠若土地区画整理事業により用地が生み出される。 運河としての整備が一部なされたが、その後の物資輸送形態の変化や社会情勢の変化、荒子川運河の支線の変更などにより、運河機能が衰退。 運河予定地を他の用途に変えて有効に活用しようとの機運が高まり、地域住民等の要望を取り入れ、一部をポンプ場や福祉施設とし、残りの大部分を公園として整備することとなる。
昭和 40 年代	荒子川は、地区の治水対策としての役割が残り、土木局により荒子川ポンプ所が整備される。
昭和 54 年（1979 年）3 月 23 日	特殊公園として都市計画決定 (29.5ha、のうち水面 10.96ha) 荒子川公園基本計画策定
昭和 54 年（1979 年）12 月 7 日	愛知県知事から都市計画事業認可を受けて事業に着手。 荒子川の両岸には桜並木の河畔散策路が設けられる。
昭和 59 年（1984 年）7 月	荒子川公園基本設計策定
昭和 60 年（1985 年）	荒子川公園 開園
昭和 62 年（1987 年）	荒子川水域内下流部（公園の南端部）に河川浄化対策事業として「フェニックスアイランド」が完成。
平成 2 年（1990 年）8 月	ボートベイで貸しボートの営業開始。
平成 3 年（1991 年）	両岸をつなぐ「荒子川パークブリッジ」が架橋される。
平成 5 年（1993 年）4 月 3 日	中心施設である「荒子川公園ガーデンプラザ」が開設され、展示、講習会の場として緑化の普及啓発を行っている。
平成 9 年（1997 年）	ガーデンプラザ内にティールーム「紫音」がオープン。
平成 15 年（2003 年）6 月	貸しボート営業終了

平成 16 年（2004 年）10 月 6 日

「あおなみ線」が開通し、公園に隣接して「荒子川公園駅」が開業。交通の便が格段に良くなり、遠方からの来園者の足となる。

平成 18 年（2006 年）

指定管理者制度導入

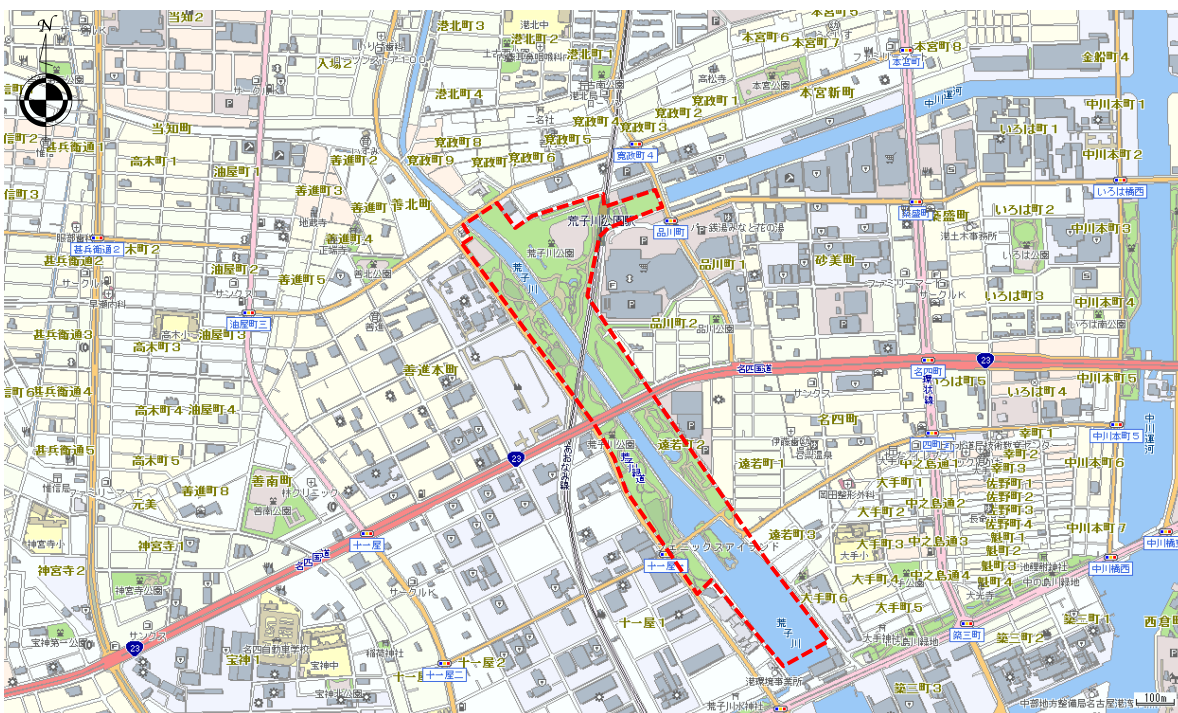
1-3.立地環境

(1)自然状況

荒子川公園は、名古屋港から約 500m 内陸側に位置した臨海型の気象である。最多風向は北北西で概ね荒子川の流心方向と同じである。この地域は海拔ゼロメートル地帯で、昭和 34 年には伊勢湾台風による水害を受け、約 1 ヶ月冠水した歴史がある。

公園全域は浚渫土が表面を被い、一部下水汚泥によって埋め立てられている。公園周辺に樹林地はない。

(2)周辺状況



周辺状況図

公園周辺は平坦地で、江戸時代より開拓された農地としての歴史が長いが、名古屋港の発展に伴い工業化が進み、現在では名古屋港臨海工業地域の一翼を担っている。

荒子川の右岸側は名古屋港臨海工業地域の工場や倉庫が林立し、左岸側は住居地域となっていて、大規模商業施設が近接している。

本公園を国道 23 号及びあおなみ線が横切っている。また、園内を荒子川が流れている。



航空写真

【荒子川】

荒子川は、中川区八田町の八田公園付近に発し、中川・港両区内を流下して、港区十一屋の荒子川ポンプ所から名古屋港へ排水される流路延長 6.7km の河川である。中村区内の上流部は柳瀬川（やなせがわ）と呼ばれるが、大半の区間が暗渠化されている。

昭和 40 年代の下水道事業などにより現在の流路形状に整理され、その後、護岸等の環境整備を行い、現在に至っている。

1-4.整備時の方針および内容

(1) 整備当初の基本方針

昭和 54 年 3 月 荒子川公園基本計画(名古屋市緑政局緑化推進課)

1) 基本計画時の基本方針

- 名古屋市が市内に 4 ヶ所設置を予定している都市緑化植物園のうち南部方面の都市緑化植物園を設置する。
- 名古屋港臨海工業地域における“緑”の拠点とする。
- 需要度の高いスポーツ施設を配置した、周辺住民のレクリエーション施設とする。
- 都市公害の緩衝帯、災害時の避難路として利用する。

◆都市緑化植物園※

名古屋市が南部方面に設置する都市緑化植物園。敷地の相当部分を都市緑化植物園が占有するため、単なる見本園ではなく、同時に散策、休養等のレクリエーション機能を兼ね備えた公園として整備する。

※都市緑化植物園・・・鑑賞目的も兼ねたさまざまな緑化植物見本園や緑化相談・指導所を兼ねた休憩所等を有するみどりの活動拠点。都市住民に対する緑の相談所として昭和 50 年より整備が進められてきた。

◆レクリエーション

都市緑化植物園を含む特殊な総合公園として位置づけられているが、本来総合公園は、休養、散策等のレクリエーションにも十分対応できるようにする必要がある、周辺区域の公園施設整備状況、スポーツ・レクリエーション施設の需要、誘致圏等から不足していると思われる施設を付加して整備する。

◆景観

当地域のランドマークとなるべき「森」的景観をつくり、周辺の景観的マイナス要因を修景する。

◆防災

重化学工業地帯に位置していることから、災害の際の火災時における防災地、安全な避難路・避難地が必要であり、広域避難地に指定されている土古公園への避難路として位置づける。

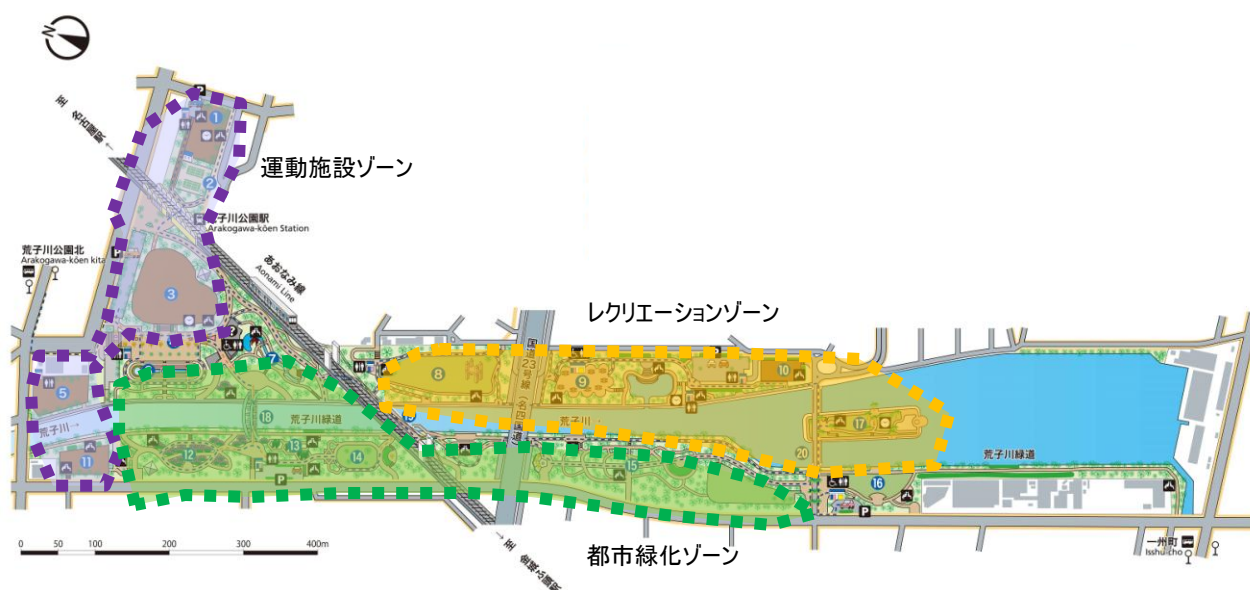
2) 基本設計時の方針

昭和 59 年 7 月 荒子川公園基本設計(名古屋市農政緑地局緑地施設課)

【基本理念】 光と水のふれあいの森

【計画方針】

- 周辺の公園にはない、スポーツ施設、健康運動施設を整備し、利用の促進を図る。
- 都市緑化植物園としては、中心施設として必要となる緑の相談所や、修景的にも優れた庭園見本園、サンクガーデンなどを整備する。
- 記念樹、県の木、市の木など地域住民との関連性を持った「ふるさとの森」を整備し、都市緑化について啓蒙する。
- 子どもたちの冒険心をはぐくみ、樹木とのふれあいを大切にした緑と水のわんぱくの森を整備する。
- テーマの中にある“水”を使用した施設として、流れ、池、噴水等を設けるとともに将来的には荒子川そのものに親水性を持たせた公園とする。
- 催し物広場を設け、様々な催し物を開催することにより、公園利用の活性化を図る。
- 通常できない体験の場として、デイキャンプ場、子ども動物園、子ども農場などを整備することにより、体験学習の一端とする。
- 交通機関が発達していないため、自家用車による利用が多くなると思われるので、駐車場はできるだけ分散させ、台数も十分確保する。
- 広域避難地に指定されている土古公園への避難路として、園路の整備を図るとともに、荒子川公園が一時避難地としての機能を果たすべく、多目的広場を設置する。



ゾーン図

◆都市緑化ゾーン

都市緑化植物園は、荒子川公園の中核をなすものであり、都市計画道路戸田荒子線がメイン動線として最適であること、緑の相談所等中心となる施設に要する面積が比較的大きいこと、荒子川右岸部については都市緑化植物園の一部として既に整備が進められていることなどを勘案し、その中心施設を荒子川左岸上流部に配置する。

◆レクリエーションゾーン

レクリエーションのための来園者は各々が明確な目的を持っているため、多少遠くに目的とする施設があったとしても、それによって来園者が減少することは考えられない。

逆にこれらレクリエーション施設を適度に散在させたほうが、荒子川公園の総合的利用・活性化につながる。ゆえにレクリエーションゾーンは、荒子川左岸下流部とする。

◆運動施設ゾーン

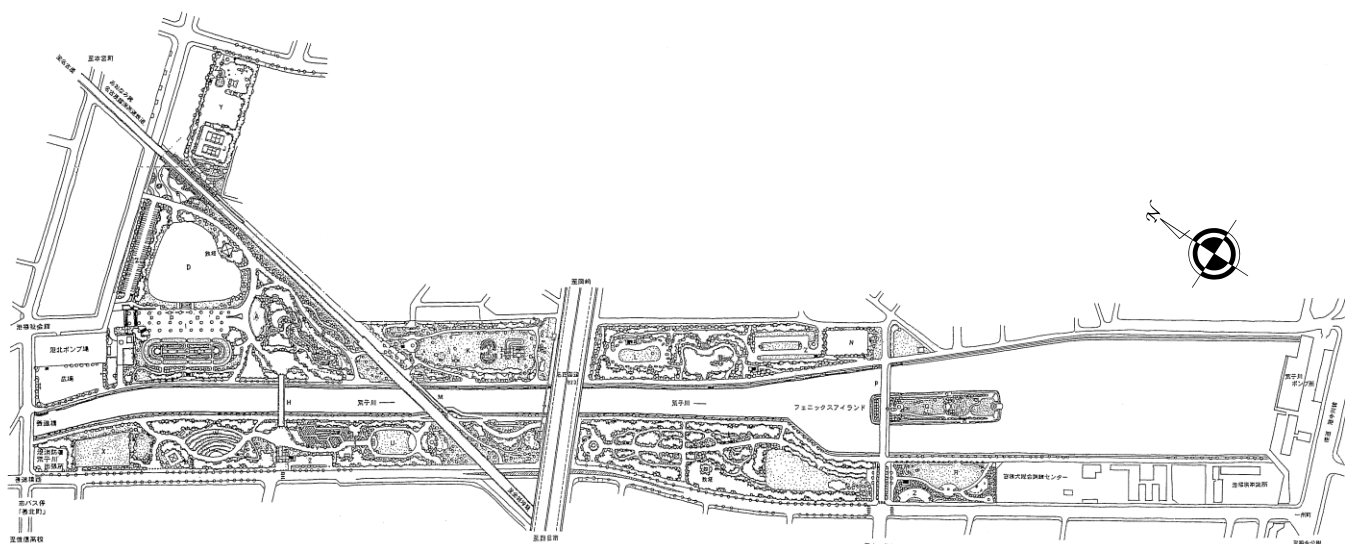
運動施設で既に整備されているもの、または整備中であるものは荒子川上流部に位置していることに加え、災害時には運動施設が一時避難地、あるいは避難路として機能することを考え合わせると、都市計画道路戸田荒子線沿いに配置することとする。

※現在、荒子川公園は広域避難場所に指定されている。

1-5.施設状況

(1)施設概要

敷地内には、荒子川右岸に街路樹・公園樹見本園（樹木園）、学校緑化・生垣見本園（野外学習園）、工場緑化見本園（後にラベンダー園を追加）を設け、荒子川左岸には、テニスコート、サンクガーデン、多目的広場、日本庭園、わんぱく冒険広場、デイキャンプ場等が設けられている。



荒子川公園平面図

■荒子川公園

敷地面積	170, 400 m ²
1) 管理棟周辺ブロック	47, 500 m ²
管理棟、ふるさとの森、多目的広場、庭園見本エリア、 サンクガーデン（ラベンダー見本園含む）、 荒子川パークブリッジ、催し物広場	
2) ラベンダー園ブロック	22, 900 m ²
ラベンダー園、学校緑化見本園、生垣見本園、緑道、駐車場	
3) 街路樹・公園樹見本園ブロック	31, 800 m ²
街路樹・公園樹見本園、緩衝緑地、緑道	

4) デイキャンプ場・冒険広場ブロック	35, 100 m ²
デイキャンプ場、わんぱく冒険広場、ボート池周辺、 ミニスポーツ広場、駐車場	
5) 望みの丘ブロック	11, 300 m ²
望みの丘、緑道、駐車場	
6) フェニックスアイランドブロック	4, 800 m ²
フェニックスアイランド	
7) テニスコートブロック	8, 100 m ²
テニスコート、運動広場、テニスコート利用者駐車場	
8) 広場ブロック	4, 300 m ²
広場	
9) 児童球戯場ブロック	4, 600 m ²
児童球戯場、緑道	

■荒子川公園ガーデンプラザ

荒子川公園ガーデンプラザは、本格的都市緑化植物園を備えた総合公園として昭和 54 年度より整備を進めてきた荒子川公園の核となる施設で、市民の緑化意識の啓発を目的に平成 5 年 4 月 30 日に開設された。

館内は、緑に関する相談・展示・講習会・研修会などの普及啓発施設として利用されている。また平成 9 年 3 月にはティールームを併設した。

建物面積：642 m²

構造：鉄筋コンクリート造平屋建

施設：ロビー・イベント展示コーナー

講習室

緑の相談・図書コーナー

事務所・和室他

玄関・談話室・トイレ

機械室・器具庫

喫茶コーナー



荒子川公園ガーデンプラザ



ティールーム「紫音」

【事業内容】

- ① 緑に関する図書・資料の提供
- ② 講習会の開催
- ③ 展示会の開催
- ④ 見本園の設置、管理

■フェニックスアイランド

水と緑に囲まれた憩いの場として、荒子川公園の中に人工の島「荒子川フェニックスアイランド」がある。水面に映るフェニックスの木がエキゾチックな南の島の雰囲気を漂わせ、魚釣りができる新しいオアシスとして、昭和 62 年 6 月にオープンした。周囲には、フェニックス、ワシントンヤシ、ソテツなど約 170 本の樹木が植えられている。



■デイキャンプ場

野外炉 8 基、野外卓 16 基（6 人掛／基）、炊事場 1 か所
※自由使用（無料）

■花の名所

1, 000 本のサクラ、18 種・2, 000 株のラベンダーが、花の名所として認知され楽しまれている。

(2) 利用時間および料金

【荒子川公園ガーデンプラザ】

開園時間：午前 9 時から午後 4 時 30 分

休館日：毎週月曜日（休日にあたるときは直後の休日でない日）

毎月第 3 水曜日（休日にあたるときは第 4 水曜日）

年末年始（12/29～1/3）

緑化相談：午前 10 時から 12 時 午後 1 時から午後 4 時

繁忙期やイベント時の土日のみ実施

【テニスコート】

テニスコート：2 面（更衣室有り）1,400 m²

利用期間	利用時間		使用料
	利用区分	時間帯	
通年	昼間使用	8:30～16:30	1,300 円
	半日使用	8:30～12:00 または 13:00～16:30	700 円
	早朝使用 薄暮使用	日の出相当時刻～8:00 17:00～日の入相当時刻	600 円

【駐車場】

原則無料。ラベンダー祭りの期間に限り有料（平成 24 年度は 6/8～6/17）。

駐車場名	面積	収容台数	供用期間	供用時間	料金
駐車場	約 1,960 m ²	普通 85 台 身障者 4 台	行事開催期間の うち市長が指定 する期間	8:45～16:30	大型車 1,200 円 普通車 500 円 自二・原付 150 円

(3) 景観

【景観のポイント】

- ・ 6月のラベンダー園、特にパークブリッジからの眺めがよい。
- ・ サクラのトンネル
- ・ サンクガーデンのあじさい



【眺望のポイント】

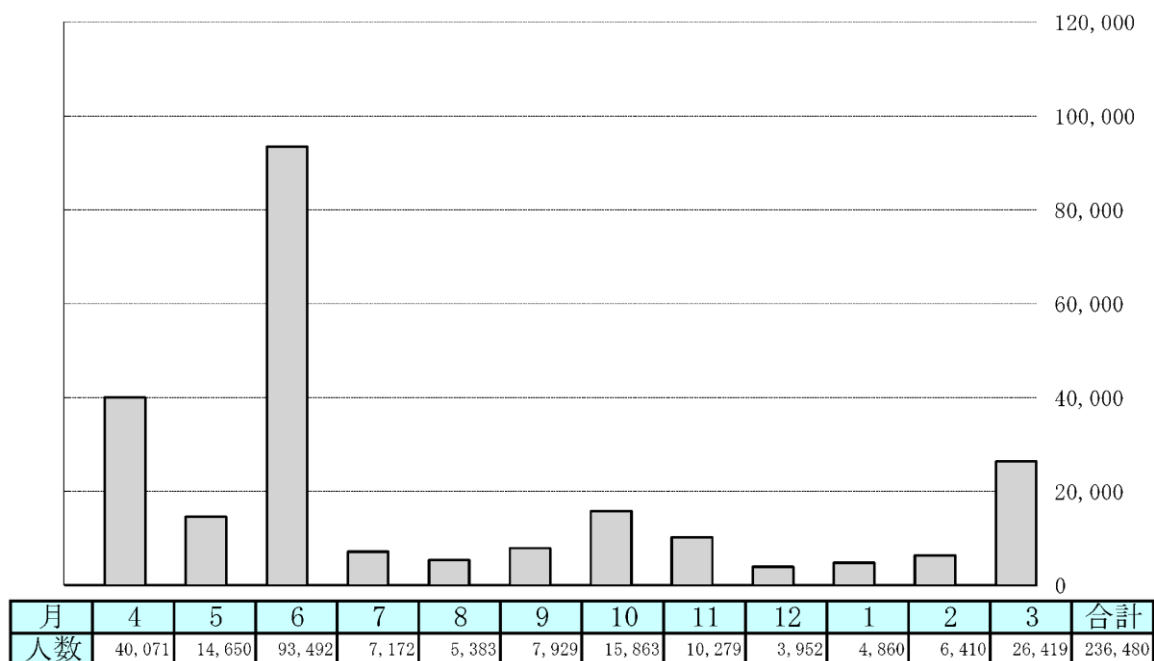
- ・ フェニックスアイランドから見える荒子川の水面と名古屋港の観覧車
- ・ パークブリッジから見えるあおなみ線



1-6.利用状況

(1)利用実績

【荒子川公園ガーデンプラザ 入館者数】（平成 24 年度）



年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24
人数	237,294	217,858	251,173	220,180	230,735	236,480

【緑の講習会・展示会等】

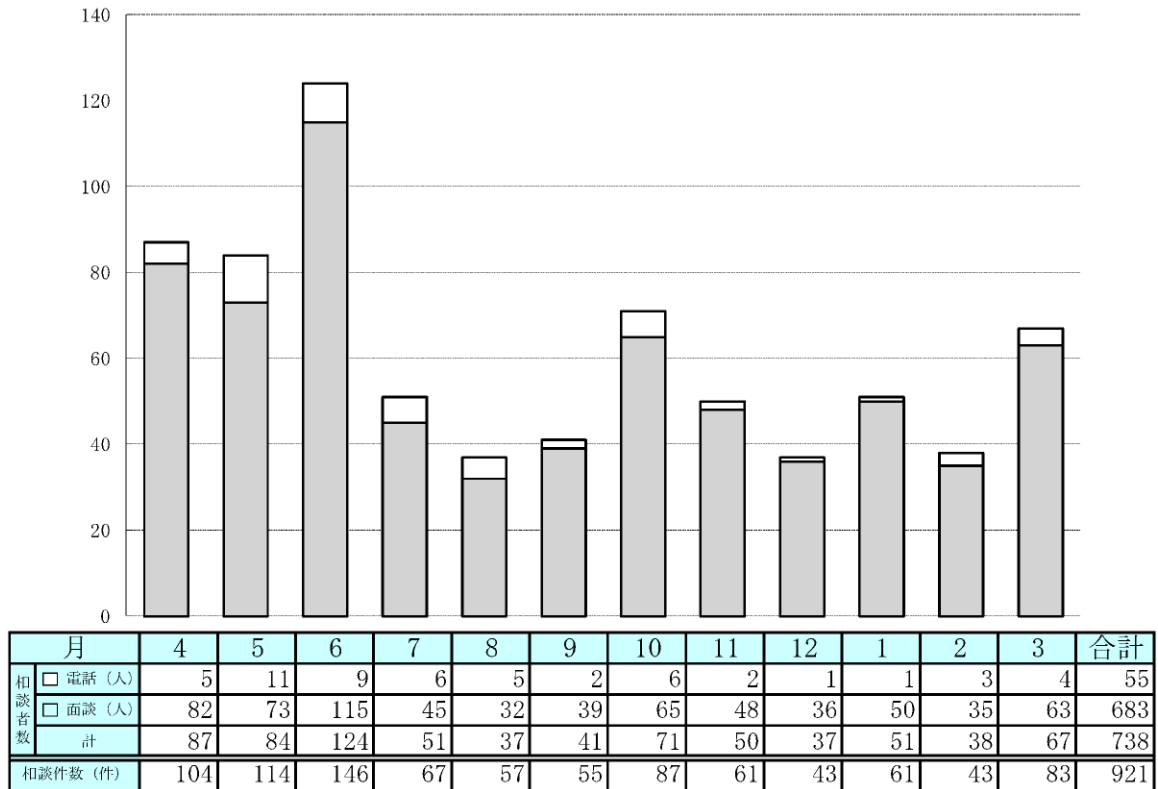
（平成24年度）

緑の講習会等	59 回	1,368 人	展示会等	32 回	延 170 日
			イベント	3 回	31 日

例年、年間の入館者数の半数近くが6月のラベンダーフェアの時期に来園しており、県内有数の規模を誇るラベンダー園が市民に広く知られていることが分かる。

遠足では、主に「わんぱく冒険広場」が利用されている。早朝は、ウォーキング、犬の散歩、ラジオ体操などで利用されている。

【緑化相談者数】



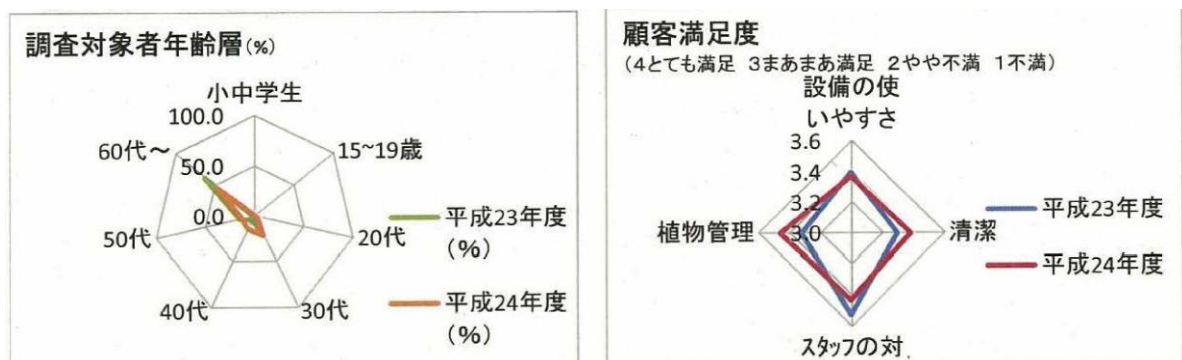
(2) 利用者のニーズ

【利用者満足度】（平成 24 年度）

① 日常利用者

調査日（件数）：5 月下旬（50）、8 月下旬（50）、11 月下旬（50）、2 月下旬（50）

調査手法：園内で、スタッフが利用者にインタビューする方法による調査

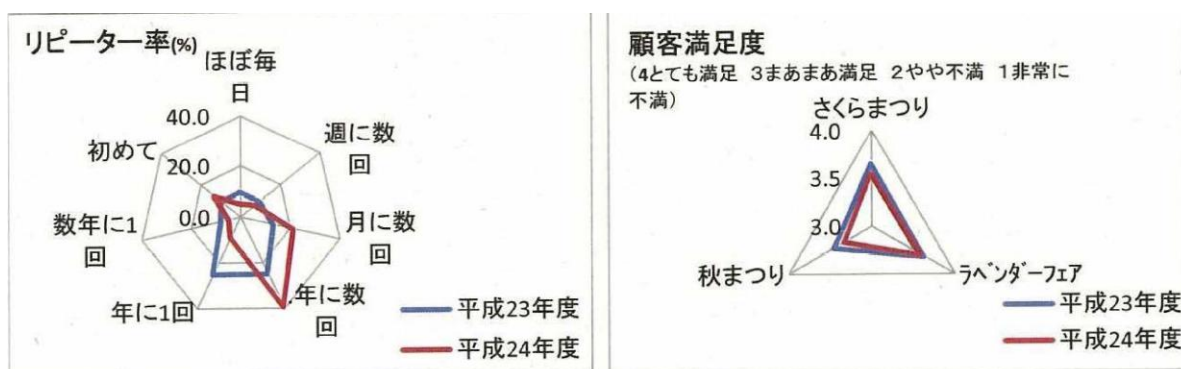


平成 23 年度に比べ、平成 24 年度は、イオンのリニューアルオープンの関係等からも増加している 30～40 代のニーズも取得した。遊具と、植物の名札を増やしてほしいという要望が多かった。

② 繁忙期

調査日（件数）：4 月さくらまつり (139)、6 月ラベンダーフェア (260)、11 月秋まつり (108)

調査手法：館内にアンケート用紙を置き、自由に投稿してもらう方法で調査

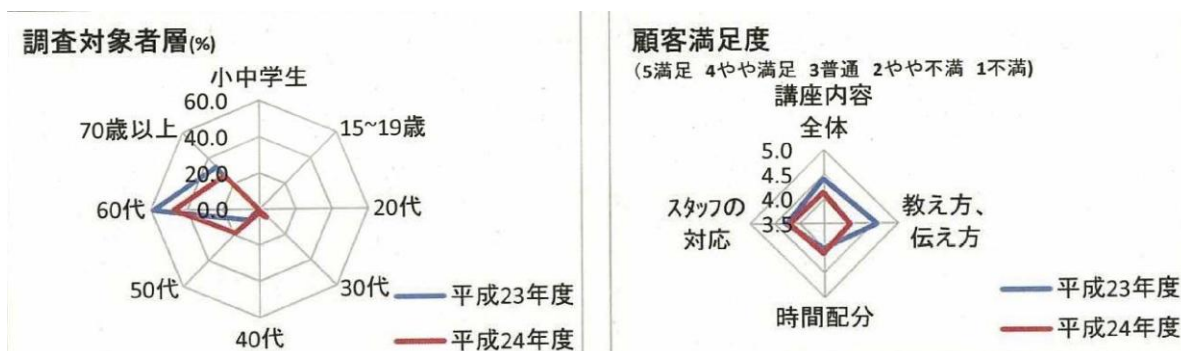


広報の充実や利用者ニーズの反映等による催事の見直し（コンサート・体験教室・物販等）を行い、平成 24 年度は平成 23 年度に比べ、再来園者の増加が図れた。

③ 講習会

調査日（件数）：なごや環境大学共育講座 6/15 (18)、11/30 (17)、2/15 (14)

調査手法：集合調査法（講習会中に受講者にアンケート用紙を配布し記入してもらう）



興味がわくタイトルや、季節ごとの見頃を紹介する内容にすることで、平成 24 年度は平成 23 年度に比べ、再来園者の増加が図られた。

(3)利用者の意見

■ 年2回開催される施設運営懇談会で出た公園に関する意見・要望は以下のとおりである。

- ・ 雑草が多い。
- ・ 遠足で食事をする場所がない。
- ・ 駐車場が不足する場合がある。(デイキャンプ場)
- ・ 公園利用者以外の駐車が多い(駅やショッピングセンターの利用者)
- ・ デイキャンプ場の利用マナーが悪い。
- ・ 男子トイレが外から見えすぎる。

■ 平成22年度第5回ネット・モニターアンケート“これからの公園のあり方について(特に利用・活用面から)”によると、荒子川公園は、「名古屋市内の公園で一番好きな公園」の上位に選ばれている。選ばれた主な理由は次のとおりである。

- 広い
 - ・ 近くて広い公園
 - ・ 広いし遊具もたくさんある。
- 自然環境
 - ・ 緑が多くて散歩するのによい。
 - ・ 四季が感じられる。
- 利用しやすい
 - ・ 駐車場がある。
 - ・ 近くにショッピングセンターがあって途中で食事に行くこともできる
 - ・ 交通の便がよく、イベント・休憩所(喫茶店)・展示などの規模もほどほどで利用しやすい。

(4)開催行事

(H24 年度実績)

■ラベンダーフェア ～花と香りと音楽と～ 82,296 人

期間：6 月 8 日（金）～17 日（日）

内容：館内特別展示（ラベンダー蒸留の実験）

ラベンダーコンサート、ラベンダークラフトミニ教室

■秋まつり 8,062 人

期間：10 月 18 日（木）～28 日（日）

内容：館内特別展示（木の実で楽しむトロッケンクランツ展）

秋の実り音楽会（愛知県警察音楽隊、名古屋市消防音楽隊他）

■さくらまつり 31,831 人

期間：3 月 30 日（金）～4 月 7 日（日）

内容：館内特別展示（花まゆ展）

お花見コンサート（名古屋市消防音楽隊他）

■展示会 実績 32 回

■講習会 実績 59 回（受講者数 1,368 人）

催し物広場のイベントは、ガーデンプラザ主催であり、その他のイベントは多目的広場で行っている。荒子川公園で行われているイベントのほとんどは、定例的なものである。

(5) 利用・運営上の課題

- ・ 駐車場は、公園利用者以外の駐車もあるため、有料化も視野に入れて管理方法の見直しを検討したい。
- ・ 荒子川公園駅ができたことにより、従来のメインエントランスよりも多目的広場からのアクセスが増えていることから、多目的広場の扱いや動線の見直しが必要になっている。

(6) 協働

【ボランティア】

定期的に活動しているボランティア団体と連携し、園内維持管理の向上を図っている。

1) 荒子川公園サポートクラブ

メンバー約 70 名（年間活動延人数 2,816 人（平成 24 年度））で、園内全域（主にサンクガーデン、ラベンダー園、駅前広場、花壇）で活動している。毎日参加する 5～6 名と適宜参加するメンバーを合わせて、毎日 10 数名が活動している状況である。毎月、第 1 水曜日に定例会を実施している。

園内作業のほか、イベント時の体験教室や館内展示等も行っている。草花花壇の植付の仕方や、ラベンダー管理などのスキルアップ研修も行っている。



2) 愛護会

愛護会 5 団体が清掃作業を中心に活動している。

【企業との協働】

イオン名古屋みなと店が隣接しているため、イオン株式会社の「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加している。（レシートに記載されている金額の一定割合を、目的の団体等に寄付するキャンペーン）

あおなみ線を運営する名古屋臨海高速鉄道(株)とは、主にウォーキングイベントの共催、沿線駅でのパンフレット設置、名古屋駅での看板設置を行っている。

【福祉活動】

港区社会福祉協議会と共催で区内の福祉施設や児童館、福祉会館、保育園と協働で春と秋、園内のなかよし花壇、駅前花壇およびプランターへの花の植付や除草、灌水、花壇の看板作成などの園芸福祉活動を実施している。



【ボランティアの意見】

平成 25 年 11 月に、荒子川公園サポートクラブおよび愛護会にアンケート調査を行った。

1) 荒子川公園の魅力について

- ・ 駅に近接していて、交通の便が良い。
- ・ 広さがあり、運動ができ、くつろげる公園である。
- ・ サクラとラベンダーが魅力。
- ・ 多様な植栽がよい。
- ・ 荒子川と両岸のサクラ並木が美しい。

2) 望まれる公園像について

- ・ きれいでみんなが集う楽しい公園
- ・ いろいろな地域から来園し、利用される公園
- ・ 多様な年齢の人々に利用される公園
- ・ いつもきれいで、くつろげる公園
- ・ 子供が喜んで遊べる公園

1-7.公園の基本的な性格・役割

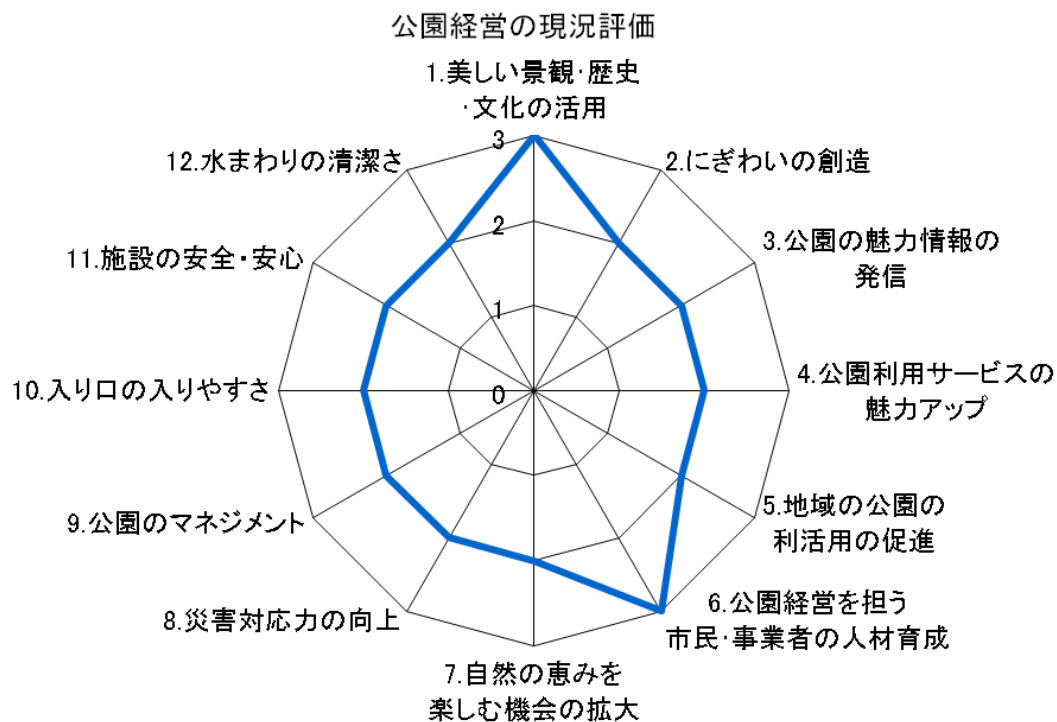
(1)特長の分析

分析ポイント

歴史・文化	水景施設や日時計など、修景施設が配置されている。 名古屋市南部方面の都市緑化植物園である。
景観	ラベンダー園やサクラのトンネルなど、四季を感じる景観が好まれている。
にぎわい	3 大まつり（ラベンダーフェア、秋まつり、さくらまつり）が大きなにぎわいとなっている。催し物広場等を利用したイベントが行われている。 緑に関する講習会や展示会が積極的に行われており、緑化の普及啓発の拠点となっている。
地域の庭	ラベンダーは、荒子川公園を特徴づけており、人気が高い。
自然の恵み	名古屋港臨海工業地域における「緑」の拠点となっている。
遊具	わんぱく冒険広場などの遊具は人気がある。
スポーツ施設	多目的広場、テニスコート、球戯場等のスポーツ施設がある。
災害対応力	都市公害の緩衝帯、災害時には広域避難場所の役割を持つ。
活動団体	ボランティアとして、荒子川公園サポートクラブの積極的な活動が、公園の管理運営を支えている。
民間活力導入状況	自販機の設置

(2) 公園経営の現況評価

公園経営の現況評価	
評価基準	
評価0	—
評価1	部分的に不足している
評価2	標準的なレベルに達している
評価3	積極的に取り組んでいる、高い評価を得ている



すべての評価項目において、標準的なレベル以上の運営がなされている。特にラベンダー園やサクラのトンネルなどが創り出す美しい景観と、荒子川サポートクラブ等のボランティア団体の積極的な活動は、高く評価されるポイントである。

2.めざすべき姿と取り組みの方針

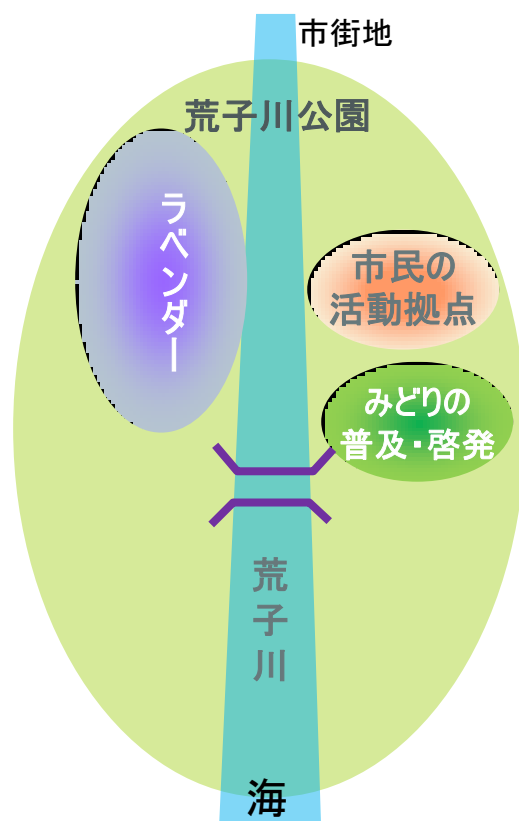
2-1.公園がめざすべき姿

(1)めざす公園像

ラベンダーの香りと季節の植物に彩られた市民の活動拠点である公園

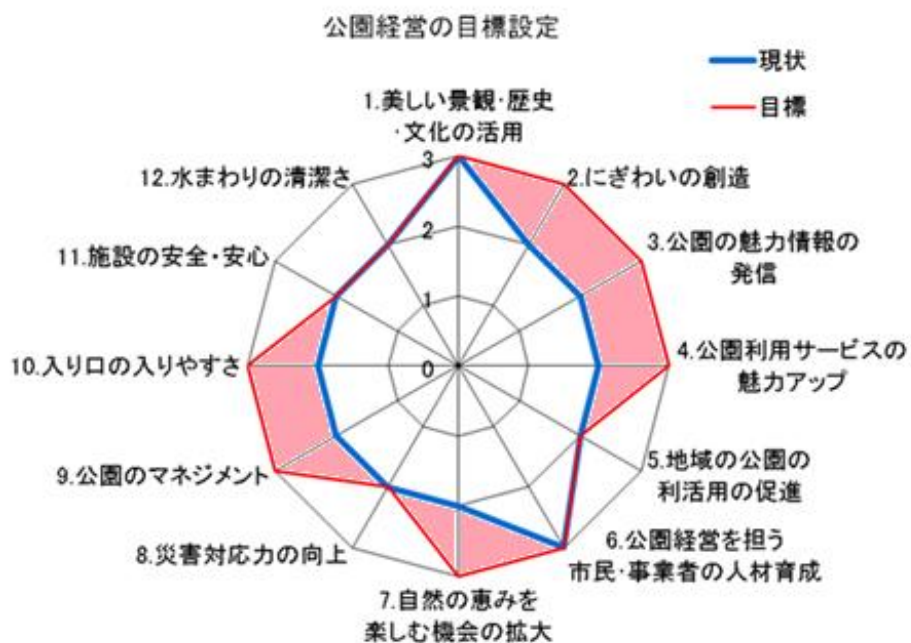
- ・ 荒子川公園の特長のひとつである「ラベンダー園」を発展・進化させる。
- ・ ボランティア活動を継承・充実し、メンバーや市民のコミュニティの場となる公園（地域のオアシス）

(2)荒子川公園のイメージ



2-2.取り組みの方針

(1)公園経営の目標設定



めざす公園像に取り組むための方針に沿って公園経営の目標を設定し、今後10年間に重点的に取り組む項目は、下表のとおりである。

めざす公園像の ための取り組み項目 めざす公園像の ための取り組み方針	景観 形成		運営 管理				連携 協働			維持 管理		
	1	10	2	3	7	9	4	5	6	8	11	12
荒子川公園の特長のひとつである「ラベンダー園」を発展・進化させる。			○	○	○		○					
ボランティア活動を継承・充実し、メンバーや市民のコミュニティの場となる公園(地域のオアシス)								○				

また、指定管理者制度のメリットを活かして、公園経営的視点に立った公園の管理を行うとともに、利用者や近隣住民の声を大切にしながら、安全・安心や環境への取組み等にも考慮して、効果的・効率的な管理運営を行う。

(2)ゾーン別特性

管理運営や改修整備等を重点的・効率的に実施していくために、園内の各ゾーンについて現況等も踏まえ機能・目的・自然的環境等により類型化し、ゾーンごとの方針を定め、各ゾーンの長を際立たせて効果的な予算の執行等を図るうえでの基本的な方針とする。



ゾーン図

【都市緑化ゾーン】

荒子川公園ガーデンプラザ、ラベンダー園および見本園等、公園の中核をなし、ボランティアや公園利用者の活動拠点、コミュニティの場となるゾーン。

親しみのある憩いの空間として、清潔で快適な施設の維持管理と同時に、植物に関連した講座やイベントなどのソフト面でも充実を図る。

【レクリエーションゾーン】

わんぱく冒険広場やデイキャンプ場など、利用者の人気が高く、遠足での利用や休日の家族連れなど活気のあるゾーン。

すべての利用者が快適に使うことができるよう、施設の維持管理に加え、利用に関するルール作りや民間企業との協働等、機能を充実させる工夫を図る。遊具等の施設は、安全・安心を確保するため、日常点検等の管理を徹底する。

【運動施設ゾーン】

運動広場、テニスコート、多目的広場等、主に公園の北側に整備されたゾーン。

運動施設は、平日、休日ともに人気が高い施設であり、様々なニーズの利用者が満足できるよう運営管理していく。

(3)維持管理の方針

園地や植物の管理については、施設の特性を踏まえて、より質の高い水準を保つ維持管理を行う。

施設や設備は、利用者が快適かつ安全に利用できるよう、各種施設の位置、機能、特性を十分に把握したうえで、常に清潔に保ち、機能を正常に保持するため、各施設に応じた年間管理計画を立て、点検・管理を行う。

(4)景観形成の方針

花期の異なる種類のラベンダーを植栽することによる鑑賞期間の長期化、ビュースポットの案内などにより、来園者の増加および満足度の向上に取り組む。

園内を流れる荒子川と整備時より進められてきた、高密度植栽による“森”的景観の創造、荒子川右岸の景観向上および倉庫群の目隠しのための修景植栽によって充実した公園の緑により、「緑が育む地域のオアシス」としての役割を果たす。

サクラのトンネルやヤシの植栽を主としたフェニックスアイランドの景観など、荒子川公園を特徴づけている景観を尊重した管理を行う。

(5)運営管理の方針

当公園を核にして、周辺エリアや市南部を対象に、花のある空間づくりへ貢献する施設として活用していく。

施設利用者の満足度を高め、多様なニーズに応えるため、施設利用者の声を聴取し、反映できるものは積極的に取り入れる。

学校緑化や生垣などの各種見本園の資源を活かし、フィールドを活用した講習会や展示会を実施する。生垣や公園樹、街路樹、庭園樹の管理を直接見学することで緑化の普及啓発を図る。

若い世代の利用者を増やすためのイベント・催しを積極的に実施する。

【広報】

新たな広報ツールの開発、パブリシティの活用、あおなみ線や学校等との連携を進め、積極的に最新情報を発信する。

【駐車場】

駐車場は現在基本的に無料であるが、公園利用者以外の利用が多いため、公園利用者が確実に利用できる方策を検討する。必要に応じて民間の駐車場システムの導入も考慮する。

【デイキャンプ場】

人気の高いバーベキュー利用者の利便性の向上を図り、同時に他の来園者も快適に公園が利用できるよう、デイキャンプ場の施設の充実と、新たな仕組みづくりに取り組む。

(6) 連携・協働の方針

市民団体や鉄道事業者との連携を進め、地域に根ざした公園を目指した管理運営を行う。現在、荒子川公園で活動している荒子川公園サポートクラブおよび5つの公園愛護会のほか、NPO、市民等との協働事業を実施する。

ボランティア活動の継続・充実を図り、公園をボランティアメンバーや市民のコミュニティの場（地域のオアシス）として活用する。

(7) 改修・再整備の方針

公園の安全・魅力向上のために必要な場合は、改修を行う。

(8) 災害対応の方針

「名古屋市地域防災計画」「震災に強いまちづくり方針～名古屋市防災都市づくり計画～」に基づき、広域避難場所としての機能を確保する。

火災、地震、風水害等の防災・災害対応マニュアルをあらかじめ作成し、発災時には、利用者の安全確保・避難誘導に努める。